

## 第Ⅲ部 事業取組内容紹介：成果および今後の課題

### i. 事業推進の「仕組み」の整備

#### Ⅲ－i－1. 行動計画「岡山大学男女共同参画推進基本計画」の策定・実施

[参照：本書 pp. 87～91]

##### (1) 取組（施策）の目的および目標

本学における男女共同参画の一層の推進のために、本学独自の男女共同参画推進の基本となる理念を分かりやすいかたちで構成員に示すことで、本学の目指す男女共同参画の一層の進展を計ることを目的とする。また、行動計画に基づき、本学の全ての部局長等がメンバーとなるダイバーシティ推進委員会を設置し、着実な目標達成を目指す。

##### (2) 取組（施策）の内容

男女共同参画室および次世代育成支援室が主導し、男女共同参画に関する意識改革と本事業の重要なテーマである「女性研究者（教員）」の割合向上（増員）を達成するために、基本的理念および行動計画を構成員に周知・徹底させる。このために、基本的指針となる岡山大学独自の行動計画「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、全学的合意を得た。本行動計画に基づき、それぞれの部局においては将来計画と達成目標を策定し、「10年後には自然科学系女性教員の割合を20%」達成に向けてスタートした。

##### (3) 期待される効果

本取組は、学長主導、全学の部局長等がメンバーとなるダイバーシティ推進委員会において、本基本計画の達成を点検することで、本学における男女共同参画の進展が加速度的に早まることが期待できる。

##### (4) 得られた成果および達成状況

部局においては、既に男女共同参画推進のための方針および女性教員数増加に関する目標が設定され、ダイバーシティ推進委員会に提出されている。

##### (5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

部局ごとの将来計画に基づき、年度ごとに達成状況を点検する仕組みになっており、次年度以降も継続的に取組まれる。

##### (6) 特記事項等

基本計画に盛り込まれている「10年後には自然科学系女性教員の割合を20%とすること」を目指すという目標が設定されていることは、特記すべきである。

### Ⅲ-i-2. 女性教員割合増加のためのポジティブ・アクション

[参照：本書 p. 92]

#### (1) 取組（施策）の目的および目標

教員公募文書へのポジティブ・アクションの文言を明記することにより、より多くの優秀な女性教員の応募を促し、女性教員の採用割合、増加を目的とする。

#### (2) 取組（施策）の内容

本学の教員公募文書には、次のポジティブ・アクションの文言を明記することが、全学的に認められ、現在では周知・徹底されている。

#### ダイバーシティ推進本部長より部局へ発信されたポジティブ・アクションの通知 (平成 23 年 6 月 13 日付)

各部局において教員を公募する際には、下記文面を原則として入れていただき、男女共同参画の推進を積極的にアピールしていただきますようお願いいたします。

記

「岡山大学では、男女共同参画を推進し、女性教員をサポートしています。女性の積極的な応募を歓迎します。」

#### (3) 期待される効果

優秀な女性教員の応募件数の増加が期待され、これにより採用割合、採用人数の増加が期待できる。

#### (4) 得られた成果および達成状況

本学では男女共同参画社会の実現、女性教員のサポート体制を推進していることが全国的にも認知されつつあり、女性教員の応募が増加する傾向にある。

#### (5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

本学における女性教員のサポート体制は、ウーマン・テニユア・トラック教員 (WTT) 制度とともに全国的に認知が進んでいる。次年度以降も WTT 制度の継続とともに、本ポジティブ・アクションも継続される。

問題は、自然科学系の公募領域に教授、准教授クラスの女性研究者が少ないことである。しかし、近い将来 WTT 教員が順調に養成されることで、循環型人事システムが良好に進展することが期待できる。

#### (6) 特記事項等

本学の WTT 制度と連動し、相乗効果もあり、認知度は高まっている。

### Ⅲ－i－3. 「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」

[参照：本書 pp. 322～323]

#### (1) 取組（施策）の目的および目標

中国四国地区国立 10 大学の学長による「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」は、中国四国地区内国立大学における男女共同参画推進、女性の参画推進、就労環境整備、人材育成等の推進を決意したものであり、今後とも相互連携の下、地域発展の重要な先導となることを誓ったものである。本共同宣言は、今後の行動規範ともなるものである。

#### (2) 取組（施策）の内容

中国・四国地区では平成 21 年度末に広島大学が第 1 回を開催した中国四国男女共同参画シンポジウムが継続して実施されている。平成 23 年度に岡山大学が本シンポジウムの主催大学となるにあたり、今後地区内大学が協働することを通して連携を密にすることを目指した。そのために、中国・四国地区の国立大学学長による共同宣言を行い、今後の取組の中心的柱にすることとした。

#### (3) 期待される効果

共同宣言では、次の 5 項目を実行していくことを謳っている。

- \* 大学構成員の女性比率の向上に努め、かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- \* 大学構成員が持てる資質・能力を最大限発揮できる教育・研究および就労環境を整備・充実すること
- \* 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- \* 男女共同参画社会実現への取組において、シンポジウム等を継続開催し、地域との協力・協働を進めること
- \* 男女共同参画社会実現に向けて、地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

これら 5 項目は、男女共同参画社会実現を協働し、連携して進めるための今後の行動規範となる。

#### (4) 得られた成果および達成状況

本共同宣言を実行していくために、今後とも地区内大学間連携を進めることが確認された。また、今後男女共同参画推進のための連携会議開催が確認された。

#### (5) 取組（施策）の波及効果、次年度以降の継続性および今後の課題

本共同宣言は、地区内の 10 国立大学の学長の共同歩調の下になされたものである。また、宣言は、男女共同参画社会の実現は我が国の発展にとって重要かつ喫緊の課題であ

るとの共通認識の下、大学が率先し、継続して実現を目指すことを謳ったもので、地区内外の大学、高等教育機関への波及効果は大きいものといえる。

#### (6) 特記事項等

中国四国地区内のすべての国立大学長の共同宣言であり、内容的にも男女共同参画社会実現を強く意識したもので、今後の活動の大きな指針となる重要な取組である。

### Ⅲ－i－4. 男女共同参画室の設置および整備

[参照：事業成果中間報告書 pp. 9～18]

#### (1) 取組（施策）の目的および目標

本事業および関連の取組を実施・推進する母体として、かつ直接的責任母体として男女共同参画室がその任を負うこととされている。このような重要な任を負う男女共同参画室は、学長の下に設けられたダイバーシティ推進本部の主要な構成組織、実行部隊である。次世代育成支援室等と密接な連携の下、本事業および関連の取組を中心的課題に掲げ、着実・迅速に推進する。基本的には、男女共同参画社会実現に向けて様々な活動、取組を進めることを第一義的目標としており、本事業の終了いかんにかかわらず継続的に活動することとされている。

#### (2) 取組（施策）の内容

本事業および関連の取組を遅滞なく総合的・効率的に推進するために、男女共同参画室に4つの部門と1つの業務推進室を設けた。各部門および業務推進室の所掌事項、事業活動範囲、活動計画（平成23年度用）を次ページの表に示す。表に示すようなさまざまな活動を各部門が責任を持って遂行する組織とした。また、室員は、部門会議、部門長会議、室会議で各部門および業務推進室の活動に関する情報を共有し、有機的連携の下に活動・取組を推進した。

岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室 平成 23 年度事業・活動計画

表 岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室 平成 23 年度事業・活動計画

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」H.23 年度主要事業取組項目①～⑤

部 門	◎部門長 ○副部門長 △担当助教	所掌事項	事業、活動範囲	H23 年度 活動計画
企画・統括 部 門	◎沖 室長 ○富岡副室長 忠田 室員 白髭 室員 早川 室員  本水 室員 △保坂 室員 門脇 室員	・男女共同参画企画・立案及び統括 ・女性研究者支援プログラム実施企画 ・対外交渉 ・プログラム実施経理	・男女共同参画室関連企画 ・男女共同参画推進基本計画 ・部局男女共同参画推進室支援 ・将来構想：H.24 以降 ・中国四国地区シンポジウム ・ポジティブ・アクションプランの実質化 ・ジェンダー講義実施・評価 ・学内調整 ・地域連携 ・ホームページ管理 ・マスコミ対応・対策	・男女共同参画推進基本計画の実質化 ・男女共同参画推進懇談会の実施（学部と参画室共同） ・ポジティブアクションプラン追加・提案・実践・評価 ・講義の企画（24 年度開講） ・ホームページ管理・充実 ・マスコミへの積極的情報提供 ・将来構想検討；H.24 年度以降 ・事業報告書の作成・発行 ・「学都岡大発・・・」事業による事業モデル提案書作成・発行 ・「学都岡大発・・・」事業の総括報告会 ・中国四国地区シンポジウム（11/11・金） ・男女共同参画関連図書整備 ・部門報告書の作成・整備
環境整備・ 支援推進 部 門	◎五福 室員 ○片岡 室員 岸本 室員 忠田 室員 白髭 室員  △保坂 室員 門脇 室員 小畑相談員	・学内環境整備 ・研究者支援 ・相談室 ①人材登録バンクの運用 *効率的運用、人材登録 *人材登録バンクの効果について検証 ②研究サポート体制の運用 *サポートの実施 *メンター養成研修等 *女性サポート相談室機能強化、学内連携	・人材登録バンクの運営 ・研究者支援グループのコーディネート ・出産・育児・介護支援プログラム ・女性サポート相談 ・女性キャリアデザイン ・メンター制度 ・WLB 推進	・人材登録バンクの運営、充実 ・研究支援員業務への対応 ・教育・研究・職場環境整備の提案・評価 ・WLB の啓蒙・普及 ・メンター養成研修、制度 ・常設サロンの設置準備 ・その他女性教職員支援策、環境整備の検討・実施 ・部門報告書の作成・整備
広報・意識 啓発推進 部 門	◎根岸 室員 ○中谷 室員 坂口 室員 柴倉 室員 大山 室員  保坂 室員 △門脇 室員	・学内・学外広報 ・意識改革・意識啓発 ③アンケート調査・分析による意識改革の適進と施策の導入 ④意識啓発・広報活動の活性化 *交流サロン開催 *シンポジウム開催 *ニュースレター発行 *その他広報活動	・意識啓発、意識改革推進 ・学内・学外広報活動 ・サロン企画・実施 ・シンポジウム企画・実施 ・ニュースレター発行 ・ニュースレター・ラビッドの発行（企画と共同）	・交流サロン（3～4 回） ・シンポジウム ・News Letter の発行（年 4 回） ・Newsletter Rapid の発行（随時） ・アンケート実施・分析・公表 ・ロールモデル集の発行 ・その他意識啓発活動策定・実施 ・部門報告書の作成・整備
次世代女性 研究者育成 推進部門	◎坂口 室員 ○篠原 室員 白髭 室員  本水 室員 保坂 室員 △門脇 室員	・学生、院生対象 ・中高生対象	・学内学生・院生対象のロールモデルによる研究紹介、講演会 ・学外中高生対象研究紹介（WTT 教員＋院生） ・オープンキャンパス事業	・中学・高校生向けおかやまサイエンス・トーク実施（5 回～） ・学内・院生、学部生向け研究紹介 ・協力院生のネットワーク整備 ・その他高校生オープンキャンパス企画など ・部門報告書の作成・整備
WTT 業務 推進室	◎富岡副室長  学内有識者 （数名）  松田 室員	・WTT 教員制度の企画・立案等関連業務  ⑤ウーマン・テニユア・トラック教員の公募・選考 *第三期 WTT 教員公募等	・WTT 教員育成支援 ・WTT 教員制度改革 ・WTT 評価システム確立 ・WTT 関連システム整備	・第三期 WTT 教員公募要領作成 ・評価システム検討 ・第三期 WTT 教員募集等 ・WTT 教員評価委員会編成 ・その他 WTT 関連システム改革 ・第一期 WTT 中間評価の実施 ・室報告書の作成・整備

(3) 期待される効果

男女共同参画室として取り組むべき課題，到達目標を示し，また各部門の分担を明確化することにより，室員の取り組むべき課題，目標が明確になる。また部門間，室員間の情報の共有化が進展し，相互連携の下で，事業，取組の遂行，男女共同参画の推進が効率よく行われる。

(4) 得られた成果および達成状況

多くの取組を部門，業務推進室で分担・推進するが，定期的部門会議，室会議等で情報の共有化を進め，相互に連携し，あるいは協力することで，それぞれの取組が混線することなく効率的にかつ迅速に遂行された。

(5) 取組（施策）の波及効果，次年度以降の継続性および今後の課題

様々な事業推進体制が考えられるが，多くの課題・取組を一気呵成的に推進するためには，担うべき役割の明確化，相互連携は重要なポイントとなる。部門制・分担制はある意味「力の分散」という負の面も考えられるが，それは情報の共有，総体としての目的・目標と個々の取組の関係を明確化することで補うことが可能である。

過去3年間における男女共同参画推進事業，関連の取組の結果，大学内における理解，意識改革はかなり進んでいる。したがって，今後は「力の分散」を極力抑えるために，各年度，期間における取組項目を絞り重点的に遂行することも効果的と考えられる。

(6) 特記事項等

本事業および男女共同参画推進の取組において，本学の就労，修学環境整備は大きく改善されている。このような状況下では，次年度以降の大学独自の事業推進体制として，重点項目を厳選し，力の分散を排した新しい体制で効率的に推進することも得策と考えられる。

Ⅲ－i－5. ダイバーシティ推進委員会の設置

(1) 取組（施策）の目的および目標

「岡山大学男女共同参画推進基本計画」に基づき，岡山大学におけるダイバーシティの一層の推進を目的として設置された。本委員会は学長のリーダーシップの下に全学的委員会として開催され，男女共同参画推進も含め広くダイバーシティ推進が目的であり，全学的規模で推進することを第一義的目的としている。

(2) 取組（施策）の内容

本委員会の委員長は学長であり，理事，学部長，研究科長，病院長，研究所長，センター長等およびダイバーシティ推進本部の各室長等で構成される。委員会では，ダイバー

シティ推進に係る基本方策，推進方策の企画，立案，実施状況の点検，評価および改善，学内各組織間の連絡調整，広報および啓発活動等，幅広い分野について大学の基本の方針を策定する。本委員会の主要な議題の一つとして，男女共同参画推進が含まれており，本学の「男女共同参画に関する行動計画」に基づく将来計画，部局における達成目標，年度ごとの計画策定等が議論される。たとえば，これまでに「女性教員比率の目標値設定および方針について」など重要な議題が取り挙げられた。

### (3) 期待される効果

学長のリーダーシップの下に開催される全学の委員会であり，「男女共同参画に関する行動計画」の実施，達成目標は円滑に推進されることが期待される。

### (4) 得られた成果および達成状況

既に，行動計画に基づく部局の目標，将来計画等の策定が進み，今後は部局評価の重要な項目の一つに加えられる。

### (5) 取組（施策）の波及効果，次年度以降の継続性および今後の課題

本事業の取組，目的・目標は，ほとんど本学の「男女共同参画に関する行動計画」に含まれている。たとえば，女性教員の割合の増加に関しては，「10年後には自然科学系女性教員の割合を20%とすることを目指す」という数値目標の達成も謳われており，達成状況も毎年点検されることとなっている。したがって，次年度以降も継続され，女性教員の割合増加のみならず，就労・就学環境整備等も継続的に推進される。

### (6) 特記事項等

学長のリーダーシップの下に，全学的に男女共同参画が推進される司令塔的委員会が確立された意義は極めて大きい。

## Ⅲ－i－6. 第三者評価（外部評価）の実施

[参照：本書 pp. 92～98]

### (1) 取組（施策）の目的および目標

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の実施状況について，客観的に評価を受けることで，事業目的の達成状況を把握し，今後の課題を明らかにすることを目的とした。

### (2) 取組（施策）の内容

平成23年8-9月に，学外委員（2名）および学内委員（2名）から構成される評価委員会により中間評価を書面により実施した。中間評価の意見，コメント等に対しては，

i. 事業推進の「仕組み」の整備

男女共同参画室で対応する回答, 説明資料等を作成するとともに, 実務的対応を検討し, 迅速な実施計画を策定した。3月には書面および会議により最終評価を実施する。

(3) 期待される効果

評価委員によって, 客観的に取組状況が評価されることで, 取組の達成状況や妥当性について判断できる。また重要な未実施等の取組に対しては遅滞なく期間内に実施できる。

(4) 得られた成果および達成状況

中間評価では, 進化プランの各側面について詳細なコメントがあった。これに対する回答の準備を通して, 取組状況について振り返り, 今後の取組について検討することができた。

(5) 取組(施策)の波及効果, 次年度以降の継続性および今後の課題

最終評価は3月上旬に行われる。最終評価の結果を基に, 今後の課題は次年度以降, 検討・改善していく。